

フィールドノートから

長野県には侵略的外来生物がどのくらいいるの？

2017年5月に兵庫県尼崎市のコンテナで特定外来生物のヒアリが発見されました。その発見は、新聞やテレビを賑わせ、一部過剰な反応も見受けられました。

環境省では、2005年から、侵略的な外来生物の中でも、特に生態系や農林業などへの影響が大きいとされる海外起源の種類を特定外来生物（2016年10月現在、146種類）に指定しています。また2015年には、ヒアリのように未侵入や未定着の外来種、国内移入の外来種も加えた生態系被害防止外来種リストを公表しました。そのリストに掲載された種類数は、特定外来生物の約3倍にあたる429種（2016年10月現在）にもなっています。

侵略的な外来生物が定着・蔓延してからでは根絶することは非常に難しく費用もかかります。長野県においても、未侵入・未定着である外来生物に対して、早期発見・早期対応する体制を構築しておくことは非常に重要です。

研究所では、昨年度、既存文献や収蔵標本等を調べた結果、生態系被害防止外来種リストのうち、すでに101種類が長野県内で確認されていることがわかりました。今後は、県内にまだ未侵入・未定着だが、隣接県等の分布状況から侵入や定着の可能性が高いものをリスト化していきたいと考えています。（堀田昌伸）



2016年11月21日 松本市奈川白樺峠で撮影されたアフリカヤマメジロ（撮影者 久野公啓氏）。ネットで見ると、最近人気だそう。

川の風物詩を変える？ 外来魚コクチバス

千曲川中流域（千曲市）の定期調査は今年で3年目。投網を打った回数もついに千回を超えました。本来はアユやウグイがこの流域を代表する魚種になるはずなのですが、捕獲された魚にはあいかかわらずコクチバス（北米原産）が多く、個体数では約4割のダントツ一位の座を維持しています。長野市から坂城町にかけての流域においてコクチバスは2002年頃に初めて確認された後、急速に分布域を広げ個体数を増やしています。流れのある環境によく適応し、食物連鎖で上位に位置する大型肉食魚だけに、餌となる小魚やエビ類、水生昆虫などに対する影響が懸念されています。ウグイの伝統的ツケバ漁やアユ釣りを振興してきた地元漁協でもコクチバスの増加に危機感を持ち、釣り大会や産卵床の破壊などで駆除を試みているものの、その効果がなかなか現れていない

のが現状です。魚相の変化は千曲川の季節の風物詩や食文化まで変えるのではないかと、心配しながらも、まずは水中で起きている現象をしっかりとリポートしてゆきたいと思います。（北野 聡）



2015年5月の定期調査で捕獲されたコクチバス